生活研第５号の１２
平成２３年　４月２１日

ウィズ会宝株式会社 様

岐阜県生活技術研究所長

依頼試験成績書

依頼のあった試験について下記のとおり回答します。

記

件名	イスの強度・耐久試験
内容及び結果	1　試験体の名称、型式 ・トレジャーチェア ヒジ掛け、座受金具改良型 図１　試験体 2　試験方法 座面は一番高い状態かつ背もたれは一番起こした状態で、依頼者との協議のうえ、以下の条件により試験を行った。 (1) 座面の静的強度試験［JIS S 1203 7.1 試験区分３ 準拠］ 負荷位置決めジグによって決まる座面負荷位置および前縁から 100mm の位置に、座面当て板を介して 1,300N（約 133kgf）の垂直荷重を 10 回（保持時間 10 秒）加えた。試験後、各部の異常の有無を調べた。 負荷位置決めジグによる位置 前縁から 100mm の位置 図２　座面の静的強度試験

内　容

及　び

結　果

(2) 背もたれの静的強度試験［JIS S 1203 7.2 試験区分3準拠］

負荷位置決めジグによって決まる背もたれ位置に、背もたれ当て板を介して560N(約57kgf)の水平荷重を10回（保持時間10秒）加えた。なお、釣り合わせのため、負荷位置決めジグによって決まる座面負荷位置に、1,300N(約133kgf)の垂直荷重を加えた。試験後、各部の異常の有無を調べた。

図3　背もたれの静的強度試験

(3) ひじ部の静的水平力試験［JIS S 1203 7.3 試験区分3 準拠］

試験体の片方のひじ部を固定し、もう片方のひじ部に内側から外向きへ400N(約41kgf)の荷重を10回（保持時間 10秒）加えた。試験前後に、ひじ置き部の下側において、両ひじ部の間隔を測定した。試験後、各部の異常の有無を調べた。

図4　ひじ部の静的水平力試験および変位測定

(4) ひじ部の静的垂直力試験［JIS S 1203 7.4 試験区分3 準拠］

ひじ部の幅方向の中心線上で前端から40mmの位置に、800N(約82kgf)の垂直荷重を下向きへ10回（保持時間10秒）加えた。なお、釣り合わせのため、座面に質量60kgのおもりを、力を加える側と反対側に載せた。試験後、各部の異常の有無を調べた。

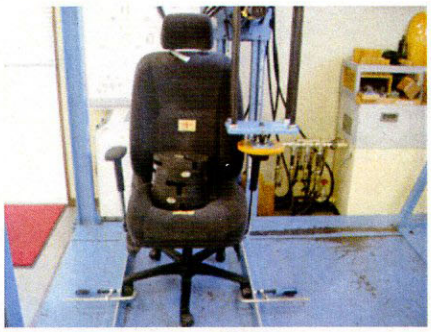

図5　ひじ部の静的垂直力試験

内　容

及　び

結　果

(5) 座面および背もたれの耐久性試験［JIS S 1203 7.5-6 試験区分3 準拠］
負荷位置決めジグによって決まる座面負荷位置に、座面当て板を介して950N(約97kgf)の荷重を毎分30サイクルの速さで50,000回加えた。同時に、負荷位置決めジグによって決まる背もたれ位置に、背もたれ当て板を介して330N(約34kgf)の荷重を毎分30サイクルの速さで50,000回加えた。試験後、各部の異常の有無を調べた。

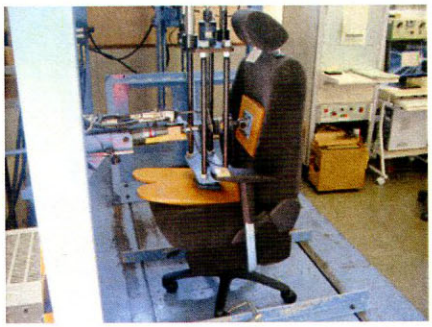

図6　座面および背もたれの耐久性試験

3　試験結果

(1) 座面の静的強度試験［JIS S 1203 7.1 試験区分3 準拠］
使用上支障のある破損、変形、緩み、外れはみられなかった。

(2) 背もたれの静的強度試験［JIS S 1203 7.2 試験区分3 準拠］
使用上支障のある破損、変形、緩み、外れはみられなかった。

(3) ひじ部の静的水平力試験［JIS S 1203 7.3 試験区分3 準拠］
ひじ部の間隔は42mm（615mm → 657mm）広がった。
破損、緩み、外れはみられなかった。

(4) ひじ部の静的垂直力試験［JIS S 1203 7.4 試験区分3 準拠］
使用上支障のある破損、変形、緩み、外れはみられなかった。

(5) 座面および背もたれの耐久性試験［JIS S 1203 7.5-6 試験区分3 準拠］
使用上支障のある破損、変形、緩み、外れはみられなかった。

以上